

ながせ

永瀬ひできの「歩く眼」

第21号

埼玉県議会 一般質問の報告

この度、埼玉県議会本会議において、2回目となる一般質問を行いました。本号から5回のシリーズに分けて、質問の内容をご報告させていただきます。

尚、要望が実現し、平成29年度予算でJR川口駅、西川口駅のホームドア設置が決まりました。



JR川口駅・西川口駅 ホームドア設置への 支援について

永瀬秀樹の質問概要

昨今、駅のホームからの転落事故、列車との接触事故が多発しています。中でも、視覚障害者の方にとっては常

に危険がつきまとい、駅のホームは欄干のない橋にも例えられ、転落事故の防止に効果の高い対策としてホームドア設置の必要性が高まっています。

国は、平成27年2月に閣議決定した交通政策基本計画で、平成32年度までにホームドア設置駅を800駅とする目標を設定し、平成28年3月末現在で全国665の駅に設置されました。

特に、事故発生件数の多い1日の利用者数10万人以上の駅においては、ホームの状況を勘案しつつ、ホームドアまたは内方線付き点字用ブロックの整備を優先して速やかに実施するよう努めることとされています。

県においても、埼玉県鉄道駅ホームドア設置促進モデル事業補助金交付要綱を定め、



設置の促進を図っていますが、川口市を南北に貫く主要鉄道である京浜東北線の各駅にはいまだ設置されていません。特に川口駅、西川口駅は1日の利用者数が約16万人、11万人と多く、私たち自民党川口議員団はこれまでも国・県、市、JRに対し要望を重ねてまいりました。

駅空間の質的向上、全ての住民の安全確保、公共交通機関の定時運行確保等につながる川口駅、西川口駅のホームドアの設置について、私は、県においても川口市と協調した支援体制を組み、早期の設置



を強く要望しています。

両駅における設置への支援及び設置の見通しについてどのように考えているか、県の見解を伺いました。

県の答弁

ホームドア設置は、転落事故などを防止し利用者の安全を確保する上で有効であり、県としては鉄道事業者に対して設置を促進しているところです。

JR川口駅、西川口駅については、1日当たりの利用者数が10万人を超えており、ホームドア設置の効果は高いものと考えています。

ホームドア設置には、ホーム改良も含め多額の費用がかかることや、車両の扉位置の統一などの課題を解決する必要があります。

京浜東北線においては、列車の扉位置の統一という課題は既に解決されて

三新新

ホームドア設置急務

藤駅も高コスト足かせ

予定も高コスト足かせ

藤駅も高コスト足かせ

予定も高コスト足かせ

「声掛けがあると安心」

視覚障害者が訴え

内方線付きブロック敷設

＜埼玉新聞 1月15日付＞

いることから、JR東日本では赤羽駅や上野駅などではホームドアの設置工事を始めたところです。県内も浦和駅、さいたま新都心駅で今年度工事に着手しています。こうした状況を踏まえ、現在、地元川口市と協力して、川口駅、西川口駅へのホームドア設置についての協議をJR東日本と行っています。

県としては、ホームドアの早期設置に向けて、引き続き取り組んでまいります。

との答弁を引き出しました。

先般、蕨駅で悲しい事故があったばかりです。多くの方が日々利用する駅の安全確保は喫緊の課題。亡くなられた方の御冥福をお祈りするとともに、皆様のご意思をしっかりと胸に刻み、1日も早いホームドアの設置実現に向け取り組んでまいります。

首都高速川口線と東京外郭環状道路という二つの高速道路が近接する川口ジャンクションの近く、首都高速川口線の川口パーキングエリアに隣接した場所にある赤山城跡がそれであります。ここは江戸時代に、関東軍代伊奈氏が寛永6年、小室、現在の伊奈町から当地に陣屋を移し、以来、163年間十代にわたり関八州の幕府領天領を管轄した拠点でした。往時は湿地を外堀とし、本丸、二の丸、出丸、家臣の屋敷などがある曲輪、内堀などからなる約77万㎡の広大な城郭だったので

現在、赤山陣屋の会など地元ボランティアの皆様の協力もあり、一部は公園として空堀などの遺構が整備されています。しかし改易、破却された城郭跡のために多くは土中に埋もれ、資料も乏しく、学術的価値を証明することが難しく、県においては旧跡指定にされていますが、正に歴史にうずもれた

赤山城跡保護への支援について

永瀬秀樹の質問概要

私の地元、川口にはかつて大阪城と同じ大きさのお城が存在していたということをお聞きいただけますか。

川口市北部の神根地区、



城跡と言えます。

現在、隣接地に川口市が（仮称）赤山歴史自然公園を整備中であり、今後の保護の仕方によっては都心からほど近く、緑が豊かに残された歴史遺産として、観光資源として活用できることも考えられます。この地域の貴重な歴史資産である赤山城跡の学術的価値の検証や更なる保護の推進について、県の支援を検討いただきたいと考えています。県の所見を伺いました。

県の答弁

赤山城跡では、地元川口市によって開発や堀跡の整備に伴う発掘調査が部分的に行われてきましたが、城跡の学術的価値や全体像は、まだ十分に明らかになっていません。

赤山城跡のような遺跡において、学術的価値を検証する場合、最も重要なのは、保存を目的とした発掘調査を計画的に実施することです。その上で、明らかとなった学術的価値に基づいた保存管理や活用に関する指針を示すことが必要です。

今後、川口市がこれらのことに取り組むときには、県として、技術的な助言、専門家からなる評価・指導委員会の開催、情報提供などを行うこ

とができると考えています。赤山城跡の適切な保護に向けて、川口市との調整を図りながら、できる限りの支援をしてまいります。

との前向きな答弁を伺うことができました。

伊奈氏は利根川東遷事業などの治水工事、新田開発、河川改修での功績をはじめ、宝永4年（1707年）におきた富士山大噴火に対し、砂除川浚（すなよけかわざらい）奉行と呼ばれる災害対策の最高責任者として被災地の復興に取り組んだ伊奈忠順（ただのぶ）の功績が、近年、再評価されています。川口の貴重な歴史資産の学術的検証と更なる保護の推進に向け、しっかり取り組んでいかなければならないと考えています。



あなたのご意見をお聞かせ下さい。

自民党県議団 県政調査事務所

〒332-0012 川口市本町4-8-12-102 Tel.048-223-6050 Fax.048-223-6170